

令和3年度第1回花巻市総合教育会議 議事録

1. 開催日時

令和4年3月25日(金) 午前10時～11時32分

2. 開催場所

花巻市役所本庁舎 委員会室

3. 出席構成員

花巻市長 上田 東一

花巻市教育委員会 佐藤 勝(教育長)

花巻市教育委員会 中村 弘樹(教育委員)

花巻市教育委員会 役重 眞喜子(教育委員)

花巻市教育委員会 衣更着 潤(教育委員)

花巻市教育委員会 熊谷 勇夫(教育委員)

花巻市教育委員会 中村 祐美子(教育委員)

4. 説明のため出席した職員及び事務局等

教育部長 岩間 裕子

教育企画課長 小原 賢史

学務管理課長 八重畑 亘

学校教育課長 佐々木 健一

学務管理課 課長補佐 粒針 満

教育企画課 課長補佐 畠山 英俊

教育企画課 総務企画係 係長 瀬川 千香子

教育企画課 総務企画係 主事 荒木田 美月

花巻小学校長 菅野 広紀

花巻北中学校長 佐藤 敦士

5. 協議

教職員の多忙化解消に向けて

6. 議事録

(岩間教育部長)

只今から、令和3年度第1回花巻市総合教育会議を開会いたします。

はじめに、主催者であります上田市長から挨拶をお願いいたします。

(上田市長)

おはようございます。今日は、令和3年度第1回花巻市総合教育会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。3期目が2月5日から始まり、3期目初めての総合教育会議になります。また、役重委員につきましては、先ほど3期目の辞令交付をさせていただきました。衣更着委員につきましても、先日の議会で、選任について御同意をいただきましたので、この任期、3月末に終了した段階で、新たな辞令交付をさせていただいて、さらに4年間御活躍いただくこととなります。お二方に対して、今後の御活躍、あるいは御指導、御助言をよろしくお願いしたいと思います。

今日は、議題といたしまして、教職員の多忙化解消に向けてということでございます。学校の先生方が忙し過ぎるというのは、今、全国的な課題になっていますし、そのことにより、教員を志望する学生の数が減っているというお話もあります。そのことからいたしますと、この問題は教職員の方々だけの問題ではなく、学校のあり方自体を問いかけている大変重要な課題であると思っております。教育委員会につきましては、これから説明がございしますが、いろいろな対策をやっていただいているところであり、そのことの効果も一定程度出ていると我々は感じているところであります。そのうえで、教育委員の皆様、それについての御意見、御指導をこの場でいただければ大変ありがたいと思っている次第であります。

これはたまたまでございますが、花巻市の労働関係の方々から、学校の教職員の課題について私に要望したいという申し出があり、今月末にお会いすることになっております。私だけでなく教育長と教育部長にも立ち会っていただき、その場でお話できること、あるいは、課題として我々が受け止めなくてはならないことをお聞きするというのをさせていただきますと思いますが、今日の会議は、以前からこの議題が決まっていたわけございまして、先ほど申し上げたような要望とは直接的な関連性はございません。ただ、ある意味では今日このお話ができるということは、時宜を得た話でございまして、そういう観点からも、忌憚のない御意見をいただければ、大変ありがたいと思う次第でございます。よろしくお願いいたします。

(岩間教育部長)

続きまして、教育委員会を代表し、佐藤教育長から挨拶をお願いいたします。

(佐藤教育長)

おはようございます。今日は総合教育会議ということで、市長とこのように御意見を交わし合う、いろいろな協議ができる場を設定していただきました。本当にありがとうございます。現在、花巻市第3期教育振興基本計画がスタートして1年目が過ぎようとしていますが、計画の「本市の教育をめぐる現状と課題」で、感染症への慎重な対応と健やかな学びの保障をうたっておりましたが、現在の学校教育での最大の課題は、新型コロナウイルス感染症への対応であります。感染者数は高止まりが続いており、終息が見えない状況

であります。市内の保育・教育機関においては、中部保健所の御指導を得ながら、教育委員会、学校が連携し、何とか対応しながら、無事に今年度を終了し、新年度を迎えるということで進めております。教育活動全般に大きな制約を受けていることがすでに3年目ということでございますので、今後、こうした中で、どのように日々の教育活動の充実を図り子どもたちの学びを保障していくかということについて、最大の課題があるということで新学期をスタートさせたいと思っております。

今日のテーマである教職員の多忙化でございますが、申し上げるまでもなく、数十年以来の大きな課題であります。国からも、昭和20年代、あるいは40年代と、いろいろな考え、方向性を示されてまいりました。ただ、これが顕在化したのは、平成26年であります。平成18年に国が行った勤務実態調査においては一定の数値が得られたのですが、平成26年には、OECDにおいて一番長い時間、先生方の勤務が過剰であり、平成18年に比べて数値が何倍かに膨れていたということで、問題が顕在化したいたしました。翌平成27年に、中央教育審議会がこれについての答申を行い、それ以来、様々な取組が示されております。

近年の対応として、公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法の一部改正が行われ、例えば、変形労働時間制の導入であるとか、様々な取組の重点化が示されました。直近では、1月の下旬だったと思っておりますが、さらに改革を推進するべく、7つの留意事項ということで、さらに重点化して取り組みなさい、あるいは、取組について見える化しなさいということで示されております。この見える化については、花巻市としてもぜひ取り組んでいかなければならないと思っております。多忙化の背景には、学校現場を取り巻く環境が複雑化、多様化してきていることが一番の理由であり、学校に求められる役割が非常に拡大してきたことが考えられますが、教職員のワークライフバランスを確保しながら、先生方が健康でやりがいを持って事業改善に取り組む時間の確保、あるいは、子どもたちに向き合う時間を確保しながら、学校を活性化していくことが一番の大きな狙いかと思います。

これに対して、花巻市においては、平成27年からこの問題についての準備を進め、平成28年から花巻市教育委員会教職員多忙化解消対策会議を開催し、委員の皆さんに定期的に協議の場を設定しながら御意見を伺い、実態把握や改善の方策について、県が示しております教職員の働き方改革プランも参考にさせていただきながら、本日、お示しするプログラムに沿って取り組んでおります。

本日は、このプログラムについて御説明申し上げながら、これをたたき台として様々な御意見をいただき、今後の改善を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。また、学校現場の状況について情報提供もお願いしながら、花巻市校長会の花巻小学校の菅野広紀校長先生、それから、中学校を代表して、花巻北中学校の佐藤敦士校長先生にも御出席いただいておりますので、現場の状況等について、いろいろ御助言をいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

(岩間教育部長)

ありがとうございます。

それでは次第の3、協議に入ります。ここからは、「花巻市総合教育会議運営要領第3条第2項」の規定によりまして、上田市長に議長をお願いいたします。

(上田市長)

それでは議長を務めさせていただきます。

教職員の多忙化解消に向けての協議に入ります。事務局より説明をお願いします。八重畑学務管理課長。

(八重畑学務管理課長)

学務管理課の八重畑と申します。よろしくをお願いいたします。

資料No.1を御覧ください。各校における時間外勤務の状況について、今年度の第3四半期まで、12月までを示したものになります。過去3年分でございます。行事、長期休業などにより月ごとに違いがありますが、上は小学校、下が中学校、ともに過去2年間を含め同じような形で推移しております。令和3年度、小学校で少し増加しているという見方ができます。令和1年3月、小中学校ともに極端に少ない数値となっておりますが、これは、3月学校一斉休校が行われたものであります。

続きまして、下の表になります。令和3年時間外在校等時間（1か月あたりの平均）となります。小学校では33時間57分、中学校では43時間11分となっております。全体の平均は37時間34分です。市教委の目標として月45時間を超えないということにしておりますので、おおむね達成されている状況と言えると思います。ただ、下の80時間超え、100時間超えという部分ですが、令和2年度から、タイムカード機能を活用した在校等時間等の数値を出しておりますので、令和元年度の差が出ておりますが、80時間超え、過労死ラインと言われるラインを超えている数は、昨年度と比べてあまり変化がない状況です。100時間超えについても同様に若干少なくなっておりますが、まだまだ減らない状況であります。80時間、100時間ともに、15人程度の方が複数回オーバーしてしまうという状況があります。多い方で、5、6回という方もおります。理由としましては、生徒指導事案が重なった、生徒会準備で大変だった、部活動対応、中体連の準備等がございました。また、個々の勤務スタイルも様々で、朝6時に出勤して勤務していることが積み重なってこのような数値になっている方もいらっしゃいます。

裏面、中学校の部活動1人平均時間外在校等時間数になります。これにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度と比べて低くなってはおりますが、令和2年度よりは増加している状況になっております。下の表が、持ち帰り業務についての1人平均時間数になります。全体的に減っているように見受けられます。下の表は、校種毎時間外勤務最小小学校と最大学校の比較になります。これについては、大規模校が長時間になっているというものではなく、学校間の意識の差が出ていることも感じられます。現状については以上でございます。

続きまして、多忙化解消プログラムについて御説明いたします。資料No.2の1を御覧ください。花巻市では、全学校で取り組む事項、各学校で選択的に取り組む事項と学校を支援するために教育委員会が取り組む事項ということで、10項目、9項目、13項目と分けてお示ししております。

3ページ、全学校で取り組む事項としましては、目標時間を定めた「時間外在校等時間」の縮減ということで取り組んでおります。二つ目が、業務の標準化に向けた校務分掌の見直しと、4ページ、3、長時間労働者に対する学校長面談の実施、これは80時間、100時間を越えた先生方と校長先生で面談をしていただいで、改善を図っていただくというようなことになっております。4、部活動休養日及び活動時間の徹底、5、最終退勤時刻の設定、6、定時退庁日の設定、5、6については、まだ100%となっていない状況になっております。7、時間外電話・来校相談時間の適正化、6ページ、長期休業期間中の学校閉庁日の実施、これについては【拡充】となっておりますが、資料No.2の2を御覧ください。3にありますとおり、変更として、これまで、夏季休業中の学校閉庁日を3日間から4日間に拡充することになっております。この拡充により、下の参考にありますとおり、実質5日間、令和4年度から5日間以上はとれるような形でいきます。6ページ、小学校高学年の教科担任制の導入、それから、10、学校安全衛生会議の実施については今年度から実施をしております。

続いて7ページ、各学校が選択的に取り組む事項9項目を示しております。7、8ページは資料のとおりでございます。

次に9ページ、学校を支援するために教育委員会が取り組む事項として13項目示しております。二つ目、校務支援ソフトの導入に向けた調査・検討及び導入準備ということで、資料No.2の3を御覧ください。統合型校務支援システムの導入ということで、教育活動の質の改善のため、業務の軽減と効率化を図ることを目的として、県内統一設置を進めていくものになります。令和6年度の運用開始を目指して、今、準備段階であります。では、9ページに戻ります。3番、学校給食費の公会計化の実施ということで、令和2年度から給食の公会計化をスタートしております。以降10ページ、11ページに示しているのが、学校を支援するために教育委員会の取り組む事項ということになっております。

簡単でございますが、説明は以上でございます。

(上田市長)

ありがとうございました。

教職員の多忙化解消に向けて、事務局からこれまでの状況、取組等について説明がありましたが、皆様から御意見、御質問をいただきたいと存じます。よろしくお願ひします。

これはすでに委員の皆様には説明されている項目でしょうか。今回、新たに説明された事項はございますか。事前に校長先生方から何か補足することがあれば、お話しいただければと思います。実態を含めて、今、教育委員会から説明のあった事項について、こういったことはうまくいっているとか、あるいは、こういった課題があるということがあれ

ば、教えていただければと思います。菅野先生。

(菅野花巻小学校長)

花巻小学校の菅野と申します。時間外勤務についての数値を示していただきましたが、教職員はその数値をかなり意識しております。ほとんどの小学校では、大体19時を目途にチャイムを鳴らしている状況です。本校では「蛍の光」を帰る合図にしています。区切りの時間をわかりやすくということで各校で取り組んでおりますが、そういった取組によって、先生方がある程度それを目指して、効率よく仕事をするという雰囲気にはなっているかと思っております。

その反面、雑談、学級間の情報交換等が、若干薄れているところも実際にはございます。質的な問題として、時間的には短くなっていますが、パソコンに向かって黙って仕事をしているわけですので、情報共有の面で心配なところもあります。新年度、情報共有の部分について、意図的にできるような環境づくりをしていきたいと思っております。

(上田市長)

ありがとうございます。佐藤先生。

(佐藤花巻北中学校長)

花巻北中学校の佐藤と申します。よろしくお願いたします。

先ほど、校務支援システムの導入に向けてということで、非常にありがたい話と思っております。今年は職員会議等もペーパーレスにして、パソコンの画面でPDFを見ながら、印刷したり丁合したりといった時間は無くそうと取り組んでおりますほか、タブレットが配布されていますので、紙資料を持って教室に行くのではなく、タブレットにデータを落として、それを持ちながら生徒に指導できるようにしようということを進めてきておりました。関係書類も電算化を進めてきており、そういった部分では、私たちが担任をしていた頃とは比べ物にならないぐらい労力は軽減されているのではないかとと思っております。定時退庁の日が守られていないとか、最終退勤時刻が守られていないというデータもありますが、中学校からすると、生徒指導、生徒会指導、教務はどうしても業務が集中し、勤務時間を超過してしまうという部分も本校では実態としてございます。そこを平均化しなければならぬということで取り組んでおりますが、どうしても、その月に体育祭、文化祭があるとき、もしくは、中総体の大会があるときについては、偏ってしまうことは私の反省としてございます。

中学校において部活動の負担感が大きいことはずっと言われておりますが、先ほどのデータでも、令和元年から部活動も時間数としては減ってきております。ガイドラインを定めていただき、このようにやっていこうということを市が旗振りをしてくださっているおかげで、学校ごとのガイドラインを定めて、それに準じて取り組んでおりますので、部活動の指導については、オーバーワークにはなっていないのではないかと思います。ただ、協会の大会は一向に減りません。協会主催、国では、令和3年、令和元年のところで、地方

大会の見直しを進めましようと言っているのですが、学校単位ではいかんともしがたいところかと思えます。大会の協会の運営スタッフは、実は中学校の先生方です。つまり、企画、運営、準備は中学校の先生が行っているわけです。そうしますと、部活動の指導の時間は守られているのですが、その大会を行うに当たっての企画、運営、準備のための時間が先生方にかかってきます。部活動は任意、強制参加ではないと子どもたちに言っており、今後、地域スポーツに移行していくと思うのですが、協会員イコール教員、中体連の企画運営イコール教員なのです。中体連の仕事、もしくは協会の仕事は、先生としての業務ではない、それが好きでやっているということになります。例えば、部活動の指導者は、コーチを委嘱して指導してくださっています。その分、先生が付かなくていいというところで非常に助かっているところですが、委嘱されたコーチの方は、ご自分の仕事が終わってから、夕方、夜に来て中学生を指導してくださっているというわけです。本当にありがたい話です。では、中学校の先生方はどうなのかということ。先生方が5時までで仕事が終わって、その後は好きで競技のスポーツの指導に当たる。そうすると、先生としての時間は17時までで、それ以降の時間外については、オーバーワークではなく、地域の一員として指導している、委嘱のコーチと同じような考え方になります。また、数の数え方の部分で、先生も業務の内容として整理されていくのかと思えます。

併せて、余計なことを言わせていただいておりますが、中体連での市の陸上大会、それから、通信陸上という協会の大会があります。なおかつ、市の陸上大会として花巻市独自の大会を行っております。それらの企画、運営、準備、役員、スタッフは先生方がやっております。こういった部分を精査していくと、部活動に関してせっかくガイドラインができて進んできているということについて、もう一歩進めていけるのかと思っております。

(上田市長)

ありがとうございます。非常に興味深い、大事なお話をいただいたと思えますが、先ほどの教育委員会事務局からの説明と校長先生方の御説明を踏まえた上で、御質問、あるいは御意見等があれば、お聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

私からお聞きしますが、小学校の先生方は何時ごろから出勤されているのですか。先ほど19時にはお帰りになるとおっしゃいましたが、出勤は何時頃なのでしょう。菅野先生。

(菅野花巻小学校長)

多くの先生方は、だいたい始業時間が8時15分であれば、その30分前、7時45分頃に到着される方が多いです。盛岡市から通勤している先生は、朝6時半とかに出発して7時半、7時45分頃に学校に到着されております。

(上田市長)

そうすると、通勤時間は別にしても学校には11時間以上いらっしゃるということですね。

(菅野花巻小学校長)

そうなります。

(上田市長)

それはやはり長いですね。わかりました。

それから、佐藤先生のお話について、きちんと理解できたかどうかわからないのですが、中体連や協会の大会、あるいは、陸上大会について先生方が仕事をされているというのですが、この部分は、先生方の残業時間には入っていないのでしょうか。佐藤先生。

(佐藤花巻北中学校長)

非常に曖昧なところですが、本校の先生方について言えば、大会の準備の時間もはっきりとそれについてやっているという白黒がつけられないものですので、勤務時間に入っております。

(上田市長)

そうすると、例えば、80時間、100時間超えた方については、実はもっといらっしゃるのですか。佐藤先生。

(佐藤花巻北中学校長)

時間外勤務時間に含まれて、遅く帰らざるを得なくなっている原因になっているところ

(上田市長)

市の仕事についてもこの時間外勤務の中に入れているのですか。

(佐藤花巻北中学校長)

市の仕事といたしますか、大会の企画、運営については、教員としての業務として勤務時間外にやっている、すなわち、終わりきれなくて退勤が遅くなってしまうこともあります。

(上田市長)

わかりました。ありがとうございます。

そのほか、御質問等あればお願いしたいと思います。いかがですか。中村弘樹委員。

(中村弘樹委員)

校長先生にお聞きします。時間外勤務が長い先生が、その時間がなくなった場合に、学校はきちんと運営されるのでしょうか。80時間、100時間を超えている先生の時間外勤務時間が少なくなった場合に、その学校が運営できるのかということをお聞きします。

(上田市長)

菅野先生。

(菅野花巻小学校長)

大変鋭い質問だと思います。小学校の場合、学級担任制ですので、授業が6時間終わって「さようなら」をするのが15時20分頃です。退勤時間が16時45分です。そうすると、子どもたちが帰った後、自分の仕事や打合せをする時間は1時間20分程度なので、実際は一

仕事すれば終わってしまいます。会議あった場合はほとんど会議で終わってしまいますので、その後実際に自分の仕事を始めるのは17時以降になってしまいます。18時から18時半には退勤するという形なので、実際にはまわらないと思います。授業時間が15時20分まで、その後1時間25分でどのような働き方をするかということになります。

年間を通して一番難しいのは、水泳記録会と陸上記録会の前です。子どもたちが記録会のために16時半くらいまで練習すると、子どもたちを帰したらほとんど勤務時間が終わってしまいます。17時から2時間ほど自分の仕事をするとなると、どうしても退勤が19時になってしまうということが常態化しております。ですから、水泳記録会や陸上記録会については、子どもたちが練習で残るので、どうしてもその時間、大会の前の1か月は毎日のように17時から19時の間で自分の仕事をしているということで、実際には、まわらない状況です。

(上田市長)

教材研究はその間にされているのですか。それとも自宅でされる方が多いのですか。

(菅野花巻小学校長)

花巻小学校では、子どもたちが下校した後、1時間20分の間に教材研究の時間を可能な限りできるように、会議を1週間に1回程度だけ持ち、そのほかの時間はできるだけフリーになるように努めているところです。その1時間の中で教材研究をして、事業の準備をしようと努めております。

(上田市長)

文部科学省でも、小学校においても専門科目の先生を別にするという動きがありますが、今のお話を聞いていると、その部分について市でできることは極めて限られていますよね。ただでさえ1時間15分しかない時間をさらにどこかで取るためには、1時間目から6時間目の授業を全部持たないで時間を空けるという工夫しかないとすれば、市の教育委員会では非常に限られています。文部科学省の動きは今どうなっているのでしょうか。事務局からお願いします。八重畑学務管理課長。

(八重畑学務管理課長)

県からの加配ということで、教科担任制加配がございます。ただ、まだ全部で6校ほどに6人ほどの加配しかない状況であります。ですから、実際にやるとなった場合は、各校によって工夫して授業の組み方、持ち方を組み替えるような形で進めていただいているところです。

(上田市長)

佐藤教育長。

(佐藤教育長)

教員の配置は国、県から来ます。ただ、学校によっては、そのほか学校内での職員、あるいは、学級数の状況に応じて、例えば、小学校で英語の得意な先生が英語を専科するとか、あるいは、得意な先生が音楽、体育をというように工夫はしているということです。

今後増えていくことが望ましいのですが、教科担任制についてはまだ始まったばかりだというのが、実際のところだと思います。

(上田市長)

わかりました。ほかに御質問等ございますか。中村祐美子委員。

(中村祐美子委員)

2点ほど質問させていただきます。平成27年から花巻市では多忙化に対しての活動をスタートされて、翌年から議論、協議をスタートされたと冒頭で教育長がおっしゃいましたが、多忙化と一言と言っても様々な要因が考えられると思います。花巻市においては、質と量という問題があると思っております。クオリティー、効率性の問題、それは属人的なことだと思うのですが、それとも、皆さんが一様に抱えられている業務の量の問題なのか、今までの議論の中で、花巻市においてはこういったところが課題なのか、何か傾向たるものを把握されているのであれば、教えていただきたいということが1点です。

もう1点は、例えば、これまで多くの時間を費やして、今ある教育レベルを確保されてきたと思うのですが、それにはやはり時間が必要だったということも一つとしてはあろうかと思えます。量的なところを削減することによって、質的な面への影響はあるのか、ないのかを現在の状況でもよろしいので教えていただきたいと思えます。

(上田市長)

二つ御質問いただきましたが、まずは、教育委員会事務局からお答えいただいた上で、校長先生の御見解を伺いたいと思えます。岩間教育部長。

(岩間教育部長)

お答えいたします。まず、時間外労働の傾向でございます。教育委員会の捉えといたしましては、特に中学校における部活動での先生方の従事という面で時間外が多いこと、それから、小中学校ともに、校務の分掌事務に関わる時間が多いこと、それから、生徒指導、保護者対応という部分での時間が多いことが調査開始時の傾向であったと思っております。この傾向を受けて、部活動の指導員の配置や、適正な時間についてのガイドラインを示してきたところがありますし、校務事務の中でも、特に教育委員会としてできることということで、給食の公会計化を進めたという状況がございます。それから、各学校においては、会議の精選や行事の持ち方の工夫ということで、削減に努めていただいている状況であると思っております。量を減らしたことによる質の低下が見られる部分はないかということで考えますと、教育委員会として、特に現時点において、明らかに質が低下していると見える部分はないのではないかと捉えておりますが、各校においては、それぞれ特徴ある教育活動の中で、削減せざるを得なかった部分があるとすれば、捉え方によっては質が低下した部分があるということもあり得るのではないかと思っております。

(上田市長)

ありがとうございます。それでは、菅野先生からお願いいたします。

(菅野花巻小学校長)

私からは、多忙化の要因についてお答えします。効率性か業務量かということになると、やはり、ある一定の業務量はあって、これが昭和の時代から変わっていないのです。昭和の時代は土曜日がありましたので、その時間を現在は金曜日までに押し込んでいるわけです。そうすると、土曜日があったときには、5時間、5時間、5時間、6時間、5時間という一週間の時間割でしたが、平成になってからは、6時間、6時間、6時間、6時間、5時間という一週間の時間割でやっているわけです。我慢が限界を超えたという形なのだと思います。やはり土曜日分を平日に上乘せしているために苦しいということ、先生方も真面目なので言わなかったということです。教材研究の時間はものすごく大事なのですが、先ほど申し上げたように、子どもたちは6時間授業で15時20分に下校します。先生方の退勤時間は16時45分です。その1時間25分をどうするかということが私たちに求められておりますが、会議が入ることもあります。会議には情報共有、生徒指導対応、保護者対応、特別支援教育や発達障害の子どもを支援するための支援会議等があり、非常に重要です。会議終了後に教材研究するとなると、優先順位の最後になってしまうわけです。どうしても、緊急性の高い保護者への対応、支援会議、不登校の対応をまず行い、そうすると17時過ぎてしまい、それから教材研究となります。毎日そのような繰り返しです。教材研究は先生方の熱意でやっているということでもあります。それで何とか質を保っているということなのです。

(上田市長)

佐藤先生、お願いします。

(佐藤花巻北中学校長)

中学校でも子どもたちの帰りの会が終わるのが4時10分、そのあと4時40分までが勤務時間ですので、何もなければ通常は部活動時間が30分というのが普通の生活ですが、逆に4時10分までは生徒がいるということで、教科担任制ではありますが、空き時間が1日に1時間、多くて2時間、その中で生徒の生活記録を確認するなど、様々な業務があります。教材研究については、小学校と同様に、どうしても勤務時間外にならざるを得ないというところがあります。限られた時間の中で限られた人員でやっているの、いかにするかというところで電算化、いかにパソコン等を使いながら動力を減らす、効率化を図るところで工夫をしているところです。先ほど生徒指導、家庭というお話もありましたけれども、学校でできることは限界があるということは先生たちに伝えており、とにかく医療、福祉、児童相談所等の外部につなごう、先生が全部1人でかぶって走り回るのではないですよということで取り組んでいます。確かに、生徒指導件数は多くなってきている、もしくは、非常に重たいケースが多いと思っておりますが、市の福祉関係課の方々に本校は支えられていると考えており、外部とのつながりということで、限られた人員を確保しながら、クオリティーを下げないで量を進めていくことに取り組んでおりました。

それから、教育レベルについてですが、コロナ禍でここ2年、学校行事等も圧縮しながら

ら取り組んでいます。体育祭も文化祭も半日開催ということで、今までやっていた競技の内容も大幅に減らして実施しております。その中で子どもたちに何の力をつけさせたいのかということを考えたときに、これは外せない、この時期にこれはやらなければいけないということを精査しながらやっています。体育祭にしても文化祭にしても、それから修学旅行も一昨年は山形・福島に2泊3日で行けました。今年度は、1泊2日で県内です。日数が減っても、それから岩手県内であっても、子どもたちは満足して帰ってきました。行く場所が問題なのではなくて、誰と行く、何をそこで作り上げる、何を学んで帰ってくるのかが問題であるということ考えたときに、中身を精査して、狙いをきちんと絞り込んで、そこに子どもたちが到達すれば、教育レベルは下がらないのではないかと考えております。そういった意味では、今までのやってきたものを縮小しても問題はないとは考えております。

(上田市長)

中村委員、よろしいですか。

(中村祐美子委員)

ありがとうございます。

(上田市長)

熊谷委員。

(熊谷委員)

学校現場では、学級経営や教科指導や生徒指導はずっと前からやってこられた業務で、また今後もこれについては、努力してやっていかなければならないのは教員としては当たり前だと思います。

今回、いろいろと特に文科省の方針とか、中教審の答申を受けて方針とかあるので、例えば、小学校であれば外国語活動が教科になり、学年も下がりましたよね。今は3年生以上ですか。前は5、6年生でしたが、先生は、今までの国・算・社・理に加えて、英語の指導もしなければならぬ、教材研究しなければならぬことが出てきました。それから、道徳の教科化ということで、教科化ですから評価をしなければならぬということで、業務プラスそれを推進するための研修等も関わってきます。

それから、今、ICT関係では、充実させるという意味合いでやっています。それと、学びの構築の中では、対話的で深い学びとか、個別の指導だとか、いろいろなものが出てきています。校長先生もおっしゃいましたが、昭和時代は土曜日があり、そこで3コマ、4コマあったものが平日にまわり、今はほとんど6時間になり、実際に教育課程上は減っていないわけですよね。しかも先ほど言ったような外国語活動だとか、道徳の教科化、ICTとか、共同的で深い学び等も入ってきて、個人的には業務は増えているのではないかと感じる感じがします。その中で、しかも勤務時間の縮小をなささいということ。これは矛盾しているのではないかと思うところもあります。実際に、現場の先生方は、最近の文部科学省の方針を受けて、どのような感想を持っているのでしょうか。例えば、校長先生方

の思っている雰囲気でもいいのでお聞かせいただければと思います。

(上田市長)

先生方からお願いします。菅野先生。

(菅野花巻小学校長)

小学校に、外国語活動3、4年生、そして外国語が5、6年生から、そして道徳が教科化、ICTとありますが、先生方は比較的外国語については、今から10年ぐらい前から外国語活動が導入されて多くの研修をしてきましたので、たくさんの先生方が研修を受けています。特に若い先生方は、外国語についての抵抗感があまりないというか、小学校の先生だけれども得意な教科を聞くと外国語という先生は、前より増えてきている感じはします。やはり研修が少しずつなされてきて、それが広がっているからではないかと思っていました。

道徳については、今までも指導をしてきていました。岩手県は真面目にきちんと道徳の指導をしてきましたので、小学校の先生方は、道徳については今までとあまり変わらないところがあります。評価があるからそれをどのようにするかということでの研修とか会議は確認しているのですが、基本的には今までの延長上にあります。結構、一番難しいのは、ICT関係であります。花巻小学校では、時間をとりながら、これは花巻北中学校もですが、実際にICTやタブレットを使った会議、研究会もして、先生方はそれに慣れていく、そのうちにだんだん子どもたちにもということ、私たちがまず慣れようということを進めておりますので、工夫によってはなんとかなり、今までの研修等の延長上にあります。私も大変かと思ったのですが、それほどではないと思います。うまく業務の中にICTのことも自分たちで使いながら慣れていくと、子どもたちにも一緒に活動できるようになるとは感じています。

(上田市長)

佐藤先生お願いいたします。

(佐藤花巻北中学校長)

中学校も同様です。導入当初は道徳が教科になる、評価をするということ、反応としては驚きがあるわけですが、研修を重ねる中で、先生方は、やるものだということですぐに馴染んでいきますので、そのところは問題ないかと思っていました。ICTについても、本校のことでお話をしますと、今までテレビに書画カメラを使って画像を映しながら、映像を視覚的に訴えながら、パワーポイントを映しながら行う授業をどの先生も毎時間のようにはやっていたので、それが手元のタブレットになって、配られた生徒がその画面を見る、画面のテレビとのやりとりについては、このようにやればいいのだということまで行き着けば問題はないのかと思います。今年度は導入1年目ですので、タブレット等の使い方についての学びを中心にやりましたが、使うことありきではなく、それは、学力定着のために効果的な手法の道具にすぎないのだから、来年度は使い方の勉強会ではなくて、どのように使ったら子どもたちに定着するのかということ、本筋に戻ろうという話はしてお

りました。

(上田市長)

よろしいですか。熊谷委員。

(熊谷委員)

わかりました。

(上田市長)

ICTタブレットを使うことについてもあまり抵抗がないというお話だったように思いますが、タブレットを使う場合に、すでにある教材であればそれを使うのは簡単だということですが、先ほどおっしゃった、パワーポイントを使うとなると、それを先生方が作るのは大変ではないですか。教材研究の時間がない中で、どうやって対応していくのかと少し驚きました。佐藤先生。

(佐藤花巻北中学校長)

それも教材研究の一環ですし、パワーポイントに画像に移すのか、もしくは生徒に配る紙の学習プリントを作るのか、その違いなのかと私は眺めていました。逆に紙で生徒に配るものを作るのであれば、さらに印刷に紙等の経費がかかるとか様々な部分があるのですが、それを画面に移すことになります。

(上田市長)

それは画面の中には残るのですか。

(佐藤花巻北中学校長)

今やっているのはテレビ画面に映しながらの部分で、タブレットに直接パワーポイントでということではないのですが、ただ、そのようなやり方は可能だと思います。

(上田市長)

驚きましたが、我々の世代に比べると特に若い先生は早いですね。ありがとうございます。

そのほかにございませぬか。役重委員、衣更着委員、どちらかから、お願いしたいと思います。役重委員。

(役重委員)

多忙化解消ということで長いこと努力してきており、あまり変化がないということが、この効果が出ているからこのぐらいに抑えられていると考えたらよいのか、あるいは、効果が上がっていないと考えたらいいのか、私もわからない部分ですが、やはり先ほど中村祐美子委員もおっしゃいましたが、量だけではなくて、質のことは見ていかなければならないのではないかと考えております。今、教材研究の話がありましたが、自分自身も授業をやってみたときに、小学校の先生はすごいと思いました。6時間授業をされているわけです。私の場合、90分の授業準備をするのに、その倍の時間がかかります。パワーポイントを作って、今朝出たニュースを盛り込むために、元をとったりしていると、倍の時間がかかりますので、授業準備はいったいいつされているのだろうと思いました。ベテランの

先生になると、ある程度蓄積があるので大丈夫だと思うのですが、初任から5年ぐらい経つまでは自分の授業スタイルがおそらく確立しておらず、結局持ち帰りで苦心してやってらっしゃるのだろうということは容易に想像がつかます。

そうした中で、やはり残業時間が何時間というだけではなく、先ほど菅野先生がおっしゃったように、本当に授業の向上、質の向上にあてられているのかどうか、あるいは、いくらIT化が進んでも、1回機械の調子が悪くなるとすぐに1時間、2時間とられてしまうとか、泣きたいような状況がやはり生まれてきています。例えば、大学ですとサポートデスクがあって、トラブルのときにはすぐ専門家が駆けつけてくれるという体制があるのですが、そういったサポート技術として、先生方が本業に集中できるようにするというのを、もう少しこれからきちんと見ていかなければならないのではないかと思います。今、ITの話をしていただきましたが、事務職員の方のスキルや業務の構造もすごく大事だと思っております。先生方がどうしてもやらざるを得ないようなところ、例えば、校務分掌もそうですが、事務仕事を事務職員の方も一緒になってやっていく中で、学校全体として働きがいを向上させていくという取組が大事なのではないかと思います。実態として、先ほど、見える化しなければならぬという話もあったのですが、学校によって意識の差があるという話もありましたので、進める上で何がハードルになっているのかということ、せっかくこのような場ですので、校長先生方も含めてお聞きしたいと思います。

(上田市長)

今の話は、教育委員会でどのようにできるかということについて、できる、できないも含めてお話いただいたほうが良いと思うのですが、教育委員会からお願いします。岩間教育部長。

(岩間教育部長)

難しい御質問だと思いますが、まず、本当に削減された時間が質の向上に向けられているかどうかということについては、なかなかまだ、私どももそれが質の向上に結びついているのかという検証等も行われていない状況ですし、現状から見ると、削減された時間が、どちらかという教材研究の時間等に充てられているというよりは、新たに生まれた新しい課題、例えば、保護者の対応等に振り分けられてしまっている時間の方が多いのではないかと思います。また、不登校、不適應の子どもたちが増えているという状況もありますので、そちらに費やされる時間も相当出てきていると思われまますので、例えば、行事や会議の精選、部活動の指導員に任せて空いた時間が、全て授業力の向上に振り分けられているというものでもないのかなとは思っております。

また、学校全体の校務の事務系の仕事については、この頃は学校に配置される事務職員についても、正職員から会計年度任用職員の職員を配置する学校が県で増えているのは少し気になっているところです。やはり正職員の事務職員が配置される学校と会計年度任用職員が配置される学校では、事務職員のエキスパートの力は異なるかなと思っております、気になるところがございます。それから、県で、スクールサポートスタッフ等事務のサポー

トをする職員の配置も実施していることはありますが、全校には広まっていないという状況がありますので、例えば、先ほど削減しているといった印刷の業務などを担うということでも、スクールサポートスタッフの存在も大きいと思いますので、そういった部分で、先生を裏から支えるマンパワーを支援していくという部分は、行政でできることではあるのかもしれないと思います。

(上田市長)

教育委員会は来年度から正職員の校務員を2人雇用するという事、それから、会計年度任用職員についても、学校によってはフルタイムが必要だということで、増やすことで予算化しております。そういったことで、今おっしゃったような問題意識は、市の教育委員会でもお持ちだと私は理解しております。そのほかに、県教育委員会で配置していただかなくてはいけない事務職員等については、先ほど岩間部長がおっしゃったような話だと思うのですが、役重委員がおっしゃるように、先生方の校務の仕事の負担が大きいとすれば、やはり考え方を改めていただかないと困る話だと思います。先生方が校務を全部やるのは日本だけだと思います。やはりそれを変えていかないと問題なのかなと思います。

今、役重委員が御発言されたことについて御質問させていただきますが、公立の大学の先生は、夏休みとか冬休みとか春休みは、平日は仕事をしなくてはいけない義務はあるのですか。昔は、大抵の方は忙しいのですが、例えば裁判官も自宅で調査の日は遊んでもよい、10年間か20年前にゴルフをしていたという問題がありましたが、大学の先生はそのような場合には問題にならないのですか。

(役重委員)

大学の場合は、おそらく裁量労働制になっているのですが、労務管理は、国公立、私立で全然違う面があると思います。公立の場合は、全部出勤しなさいということになっており、タイムカードを押しています。ただ、実際にはむしろ授業期間より仕事があります。授業期間は、どうしても授業でコアタイムがないので、会議等なかなか入れられないため、会議や外部関係の仕事などは全て休業期間中に行われます。おそらく義務教育、小中学校の先生方も、そういうところなのだと思います。それ以外の仕事が休業期間に入っております。

(上田市長)

私が子どものときは、夏休みに学校に行くと先生はいらっしゃらなかったですね。先生方の仕事のよさは、長期の休みがあって出なくて済むというものだったので、今はやはり出なくてはいけなくなっているのですか。休暇を取らない限りそういうことになっているのでしょうか。菅野先生。

(菅野花巻小学校長)

私が採用になった昭和60年当時は、先生方は休んでいました。4月1日に着任しましたら、5、6人しか先生方が学校にいないという状況でした。今は春休みでもものすごく忙しくて、昭和の時代は何だったのか、どうしてそのようなゆとりがあったのだろうと疑問

に思っています。

(上田市長)

仕事があるのであれば仕方がないのですが、仕事がなくとも行かなければならないことはないのではないかというのが私の疑問です。

(菅野花巻小学校長)

仕事がないということは、今はごぎいませぬ。冬休みも夏休みも提出書類やら研修やらみっちり組まれているので、意識して休みを取らないと休めない状況です。

(上田市長)

先ほどおっしゃった裁量制にして、少なくとも休みを取れるときに取るようにしなければ、学校の先生の仕事は忙しいだけで大変だということになってしまいますよね。それは簡単にはいかない話だと思いますが、そのようなことから本当は国全体として考えなくてはならない話ではないかという気はします。役重委員お願いいたします。

(役重委員)

まさに国家公務員も地方公務員もそうですが、志望者が減る、競争率が下がる一方です。そうすると確保するために、どこの自治体もそうですが、SPIで測ろうか、途中採用を増やそうかということで、入った段階で公務員としての知識が全くない方々をどうしても採らざるを得ないのは、悪循環になってしまいます。根本的なことかもしれませんが、採用戦略、人事育成戦略の考え方で働き方も考えていかないと、本当に菅野先生がおっしゃったように、あの時代はなんだったのだろうというぐらいの隔世の感がありますので、人の質が下がってくるという心配が非常にあると思っています。

(上田市長)

裁量制については労働組合などで反対の意見も強いですから、簡単にはいかないかもしれませんが、むしろ労働強化ではなくて、ゆとりを持つという観点から考えるということは国全体としてもあってもいいような気がいたします。脱線した話になりましたが、衣更着委員いかがでしょうか。

(衣更着委員)

学校経営に関することの業務が、事務作業が軽減されるために予算を付けるということをお聞きして、よいことだと思いました。校務支援ソフトの導入とありますが、先生方の事務作業の負担を軽減するためのソフト導入とはどういうものなのですか。先生方は、教材の準備等は必ずやらなくてはならないと思いますが、データ化とか、視覚化とか、先生が本来やらなくてもいいものまでされているのか、それは省けないものかということですね。

それから、研究大会等年番で回ってくるようなものについて、忙しいときは残業してでも発表するために準備しなければならないと思います。また、中体連や水泳、陸上記録会などに大会が重なるときはどうしているのでしょうか。主催側との協議になるかもしれませんが、軽減できる方法はないのでしょうか。学校単位で、行事のあるときは部活動を担

当される先生はあまり負担のないように人員配置するとか、行事と重なったときにどのような人員配置や効率化をするのかということだと思います。お話を聞くと、相当忙しくなっている印象を持ちましたので、国まであげて議論しなければならないという、広い意味で捉えるべき問題になってきていると思いました。

(上田市長)

統合型支援システムについては、教育長からお願いします。

(佐藤教育長)

私から、統合型支援システムの今の動きについてお話しいたします。先生方の仕事には、授業や生徒指導など様々ありますが、事務処理の中で、例えば、子どもの学籍を管理する、出欠席を日々管理する、成績を処理する、情報を記録する、学校日誌、体力テスト、給食管理、備品管理等様々ございます。こういった事務を一括して、統合型の支援システムを導入して軽減するのが大きな狙いです。実は、これについては決まった方法はこれまでなく、市町村ごとの取組であった部分がありました。したがって、まだ手作業でやっている学校もあれば、すでに学校によってはICTを使いながらやる方法もありました。今現在、岩手県で学校教育ICT推進協議会を組織しており、統合型校務支援システムについても、ワーキンググループがすでに2年ほど活動しております。本来であれば、ICT化あるいはGIGAスクールに先立って、県全体での使用を共通化したほうがよかったのですが、後発になってしまいましたが、先生方が異動するたびに、市町村ごと、あるいは学校ごとにやり方が違うことは非効率でストレスがたまる、そして、共通化されていないことがあるので、これをぜひ共通化しようということで、早ければ、おそらく令和6年あたりからということで、段階的になろうかと思いますが、そのような動きが今ございます。ただ、今日おいでになっている学校2校は、ICTの活用が非常に進んでいる学校であり、学校でも取り組んでいるという実績があります。システムが入ればディスク管理、セキュリティも含めて、かなり効果的になってくるだろうと思います。市としても、これにはぜひ早めに乗っていきたいと考えております。

それから、先ほど熊谷委員、衣更着委員からも御意見をいただきましたが、学校でのマネジメント、様々な事業全体についての精選はかなり進んでおります。この大きなきっかけになったのは、校長先生からもお話がありましたが、コロナ禍において圧縮、精選した結果、これはもともとこれぐらいの量でよかったのではないかと、あるいは、これはあまりにもエネルギーをかけ過ぎていたのではないかと、ある意味そういった側面を窺えるヒントを得た部分もあります。ですから、これを従前の形に戻すことは、全くナンセンスだと思います。さらにどう効率化を図って質を上げていくか、ここがいわゆる学校のマネジメントになるかと思いますが、今、先生方、特に校長先生方は、マネジメント能力についてはかなり研究し実践しておられるので、期待したいと思います。

多忙化解消について、市の進め方としては、業務に関して三つの視点を持っております。基本的には学校以外が担うべき役割、学校の業務だが必ずしも先生方が必要のない業

務、それから、学校がやるべき様々な業務の負担をまだ軽減できる、この三つの観点から進めていくことがやはり一番大事だろうと思います。ただ、これは学校だけでできることではなく、当然、教育委員会でいろいろ連絡や調整をしたり、予算や人を付けたりなど、一つずつ進めていかなければならないと思います。

大きな小学校の場合、陸上、水泳記録会等がございますが、実は数年来、やる、やらない、あるいは内容を縮小することについて校長先生方と協議を重ねてきましたが、なかなか実際は減らせないことも実態としてあります。しかし、実施する中で、軽減もしていきながら着実に進めていくといった一つのプロセスが大事ではないかと思えます。

一方、学校の再任用制度が始まり、再任用でフルタイムの先生、あるいは、29時間タイプの働き方の先生ということで、やりくりも、実際は以前よりかなり厳しくなっております。それから、学校の先生方について、高齢化してくると言えば失礼ですが、先生方の平均年齢が50代になっております。そういったしますと、大変失礼ですが、エネルギーやパワーという点では、なかなか若いときのような動きはできないということで、当然、マンパワーをどこかで保障していく、あるいは、中身を精選することになっていくのではないかと思います。様々課題はありますが、教育委員会として必要なことはやっていかなければなりません。

ただ、学校で今本当に大変なことは、様々な福祉関係のこと、生徒指導関係のこともありますが、学校がセーフティーネットの最前線になっていることは否めません。先生方は一生懸命やってくださっておりますが、バックアップシステム、連携システムをしっかり整えていくことが、精神的な負担にならない手法のためには大事だということで、きちんとやっていきたいと思えます。先ほど校長先生方からお話がありましたが、福祉関係機関との連携は教育委員会としても非常にありがたいことですし、形がかなりできてきております。事案が好転しているという例も多くあります。

それから、例えば、スクールロイヤーについても、本来は、教育改革でうたわれたにもかかわらず、なかなか実践はできておりませんが、幸い花巻市の場合は、それに相当する専門職の方がおり、教育委員会あるいは学校でも、困った場合には助言、指導を得ることができます。これは非常に大きいことと思えます。いずれにせよ、まだまだやるべきことはたくさんあるかと思えますが、各学校の自立性を高め、連携しながら進めていくということです。特効薬はないと思えますので、教育委員会として一つずつ進めていきたいというところが本音です。

(上田市長)

衣更着委員の質問に全てお答えいただいたほかに、より広い範囲でお話いただいたと思えます。ありがとうございます。今の教育長のお話について、委員の方々から質問や御意見があれば、お聞きしたいと思えます。役重委員。

(役重委員)

福祉的な面も含めてのバックアップというところと、若干被るところもあるかと思うの

ですが、コロナ禍で子どもも保護者も、ものすごくストレスを受けているということですから。私もこの2年間で、例えば、担当の学生が死にたいと言ってきたときに、どうしたらよいかとか、先生方も言えること、言えないこと含めてあるのかなと思っております。先生方のメンタルのサポートも、最終的にセーフティーネットの一つかと思います。御努力いただいていることは十分承知していますので、引き続き固めていただきたいという思いです。

(上田市長)

ありがとうございます。そのほか、ございますか。

それでは、議題についてはお話が尽きたようでございますので、ここで終了させていただきたいと思います。

進行を事務局へお返しいたします。

(岩間教育部長)

大変ありがとうございました。たくさん御意見をいただきましたので、今後に生かしてまいりたいと思います。

それでは、次第の4、その他に移らせていただきます。

次回の会議は令和4年度になってからになります。改めて日程や内容等については調整をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

皆様から何か御質問等ございますか。

(上田市長)

私から1点お話しいたします。情報を確認していませんが、一関第一高等学校では今年、東京大学に4人、京都大学に4人合格されたということです。今まで、県教育委員会では、一関一高の中高一貫の成果はまだわからないから、例えば中部地区の中高一貫について考えることはできないというお話だったのですが、今回の一関一高の進学が非常に良かったという情報は、教育委員会では把握されていますか。岩間教育部長。

(岩間教育部長)

まだ情報は持っておりませんが、岩手県で一関一高の成果を踏まえて検証すると言っていたことについては、いかに県に帰ってくるか、県で活躍してくれるかというところを、一つの指標として捉えているという言い方をされていたと記憶しております。

(上田市長)

そこに限定しなかったと理解していますが、いずれにしても、もし進学実績が上がったということであれば、それはそれでしっかり見ていく必要があると思います。これについては、教育委員会と一緒に、花巻北高等学校を中高一貫にすべきだと県に要望を出しています。考えとしては、伸びる子どもたちについて、選択肢を与えることがあってもいいのではないかと思います。東京であれば私立も公立も中高一貫校があり、今は公立も非常によくなっています。要するに、お金に関係なく、伸びる生徒には選択肢を与えることは、岩手県でもあってもよいのではないかとということで要望いたしました。素質のある子ども

たちを伸ばし切れていないとすれば、我々としては、やはりそれを考えていく必要があるのではないかと私は思っています。これについては、既存の中学校に入る子どもが減るといふ課題があるという御指摘もあります。それはそれで本当に大事なことだと思いますが、考えているのは2クラスぐらいであって、1クラスぐらいは市外から来る、あと1クラスということであれば、特に小規模校から4人も5人も行くことはないとすれば、インパクトはもちろんないとは言えないのですが、それ以上に子どもたちの選択肢を与えるということであれば、考えてもよいのかなと思っております。これはこの場で議論する話ではないので、ここで終わらせていただきたいと思いますが、選択肢を広げることが実際としてあるのであれば、そこについては、教育委員会と一緒に考えていきたいと思っております。

(岩間教育部長)

ありがとうございました。岩手県からは次の高校再編計画の中で、中高一貫校については十分議論していきたいというお話を以前いただいておりますので、それについては、きちんとやっていきたいと思っております。

それでは、以上をもちまして、令和3年度第1回花巻市総合教育会議を閉会いたします。長い時間にわたりまして、ありがとうございました。